

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校
校長 大塚 潤

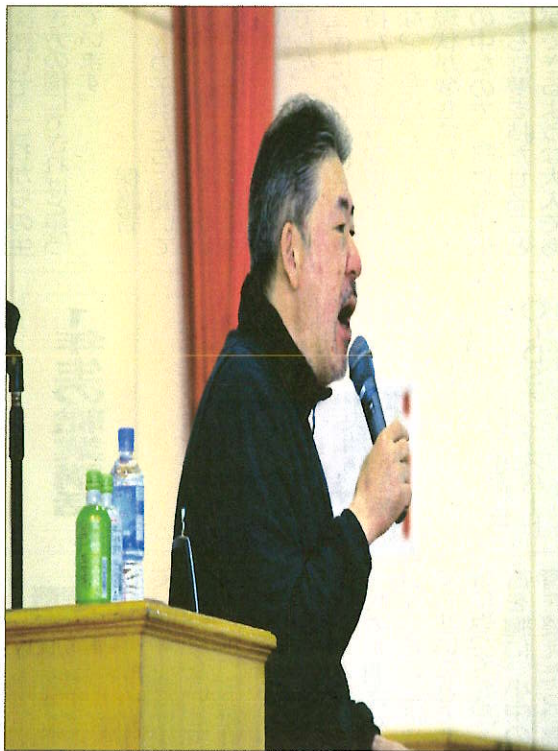
頼まれごととは試されごと

中村氏の講演から学んだこと

○今日はたくさんのお話を
していただきありがとうございます
ございました。今回の講
話で一番心に残っている
言葉は「頼まれごとは試
されごと」です。私も人か
ら頼まれたときは、中村
さんのように、全力で応
えてみんなから感謝され

るようになりたい。この
講話のおかげでたくさん
のことを学ぶことができ
た。

「夢って職業だけじゃない
んだ」とハッとさせられま
した。まだ将来のことに
ついてよくわからないし、
決められないけど、いろ
んなことを体験して経験
を積んで自分自身としっ
かりと向き合っていてゆっ
くりと決めていきたいなあ



中村氏の講演 熱く語っていただきました

と思いをしました。また「頼ま
れごとは試されごと」と
いう言葉も心に残りまし
た。「私にはできる」と見
込まれたから頼まれてい
るんだと考え、「期待以上
のことをやってやろう」と
考えて頑張っていました。

1年

○今回の講話で「人と交
流すること」「人との縁が
重要だということ」が分
かった。また、「できない
という人は、その世界の
ことを知らない」という
言葉が強く心に残った。
中村さんの講演を今後の
生活に生かしていきたい。

2年

○私は勉強があまり得意
ではありません、悩んだ時期
もありましたが、中村さ
んのお話を聞いて、挑戦
したり、努力したりする
のは自分のできる範囲で
行えばよくて、自分のペー
スで行うことが大切なん
だと学んだ。中村さんが
話されたことの中には私
も経験したことがあった
ので実感が湧きました。

いを大切に生きていこう
と考えることができまし
た。

2年

○いろいろな人の生き方を
知るといことは、自分
の人生に大きな影響を与
えます。中村さんの講演
タイトル「人との縁でつ
かく生きる」が実感でき
た気がします。

2年

○自分が日々何気なくやっ
ている部活や勉強は、「何
のためにやっているのか」
講話を聞いて深く考えさ
せられました。目の前に
あることを一生懸命やる
だけではなく、大きな目
標を立ててそれに向けて
頑張っていきたいと思い
ました。自分は時折ネガ
ティブになることがある
けど、中村さんの講話を
聞いて、どんなときでも
笑顔でポジティブにやっ
ていこうと思うようにな
れました。大谷選手のよ
うに大きな目標を立てて
そのためには何が必要か
を考えて実行していきま
い。

言葉の力です。いいなっ
て思いました。これから
言葉を一つ一つ大切にし
ていきます。中村さんか
らいただいた言葉をしっ

かりと生かして自分も目
標に向かって頑張りたい。

2年

○受験で切羽詰まってい
たけど、中村さんの話を
聞いてすごくすっきりし
ました。そしてこれから
あるたくさんのお会い一
つ一つに感謝して生きて
いこうと思いました。や
りたいことをやって自分
の信じた道をこれからも
突き進んでいこうと思
います。

3年

○今の世の中は学歴至上
主義という考え方が薄れ
てきているんだなと感じ
ました。多様な生き方、考
え方があるということに
学べました。いい高校、い
い大学に行ってもその人
のやりたいことやそこに
行くそもその目的が明
確でなければ、意味は見
えてこないと思います。

私自身、高校は受験する
けど、この高校で何をし
たいのか、将来はどうい
う生き方をしたいのかと
いうものが定まっていま
せん。でも改めて考える
ことができるとても良
かったです。とてもため
になる講演をありがとうございました。

3年

○今回の講演を聴いて、
これからの高校3年間を
中途半端に過ごすのでは
なく、自分のやりたいこ
とや興味のあることを見
つけて自分で勉強してい
きたいなと思った。また、
友達や家族の夢も否定せ
ずに全力で応援したい。

3年

○講演の中で「人の喜ぶ
ことをする」という言葉や
「頼まれごとは試されご
と」という言葉がとても印
象に残りました。頼まれ
ごとは面倒くさいことも
ありますが、最終的には
人が喜ぶことにつながる
し、そして相手の笑顔を
見ることで自分の喜びに
もつながると思います。

子供たちにも人の喜ぶ
ことをしてほしいです。
自分もしていこうと思
います。

2年2組担任 櫻井 星斗
○すこく心に響くお話や
お言葉を、あの限られた
時間の中でたくさん聞く
ことができ、とても心に
残る講演会でした。

○我が子も別室リモート
でなんとか聴講すること
ができ、彼女なりに感じ
たことがあったようにし
た。「頼まれごとは試され
ごと」を家族で共有して



渡邊さん、講演ありがとうございます

実践して、これからの生き方の糧にできればと思っています。

保護者

○今の子供たちに聞いてほしい話題ですし、大人も子供にどう伝えたいのかを考えさせる内容でした。

「何になりたい」と夢を持たせるような世の中になってもいいけれど、現状が夢を持ちにくい世の中なので、身近な子供たちに夢を持たせることができるような大人でありたいと思いました。
また機会があったら中村さんをお呼びして、もっと具体的な話を聞きたい。
地域の方

1年生の職業講話

お世話になった講師

○長崎市中央消防署 葉山 友祐 氏

○喜助うどん 代表取締役 児島 正吾 氏

○OLDSオフィスパートナー(伊良林小PTA会長) 渡邊 慎太郎 氏

○ジブラルタ生命 姉川 楓 氏

講話を受けた感想

○私は将来の夢が決まっています。今は小学校教諭になりたいと思っています。しかし、姉川楓さんみたいにいろいろな理由で大学に行けなくなるときが来るかもしれません。それでも楓さんから「自分がかしたことは良いことでも悪いことでも全て自分に返ってくる」という助言を胸に、小中の義務教育を終えたら、高校にもしっかりと志望校に入ることができるよう精一杯勉強に励んでいきます。そして、楓さんの雰囲気や人を引きつけるような魅力に憧れました。これ

から、楓さんのようなキラキラしている人になりたい。そして将来教育に携わっていききたい。
1年

1年

○僕はまだ確かな夢はないのですが、今回の姉川さんのお話を聞いて、将来の道に対する希望が広がりました。なぜ思うのかは姉川さんのお話の中にあつた、最終的に就いた職業が、自分が最初にした夢ではなくても楽しいという事を知ったからです。このお話を聞くまでは、自分の中で、「夢をつくらない」と「夢を叶えるためには…」と思ったりして、将来について心配しかなかったのですが、このようなお話をしてくださったおかげで将来への不安が少なくなりました。また、このようなお話を聞いて、「この世の中には様々な職業があるんだな」と感じました。これから姉川さんの貴重なお話を私の将来の参考として心に刻み、未来の大きな一歩を踏み出そうと思います。
1年

画竜点睛

いよいよあと1週間で3月。自然を注意深く観察すると春の訪れをそこここで発見することができます。子供たちもそれぞれの努力が実って、学業やスポーツ等で満開の花を咲かせてくれると、とても嬉しくなります。

子供たちは本年度の目標を心に決めてスタートしてから、早くも1年間が過ぎようとしています。本当に月日が経つのは早く感じます。特に、毎日毎日一生懸命に、そしてカー一杯頑張ったりすると、なお一層早く感じるのだと思います。3年生は、学校での生活も後3週間ほど残すだけで卒業を迎えます。最上級生として多くの場面でリーダーとなって、下級生を引っ張り活躍してくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。1・2年生たちも3月は、この1年間の締めくくりをし、次の学年への準備をする月でもあります。

中国の故事に「画竜点睛」という言葉があります。「竜を描いて最後に【眼】を描き入れたところ、壁に描いたその竜が、たちまち天に昇っていった」という内容の話。このことから「物語の重要な部分となるところ」「物事の最後の大事な仕上げのこと」を「画竜点睛」といい、【睛】は【瞳】と同じ意味だということ。「睛」の字は日へんではなく、目へんになっていることから分かります。

竜の絵を描くことと、子育てには共通点があります。地域も学校も家庭も竜の絵が完成していくようにと支援をしていきます。伴走していきます。そして、子供自身も自ら絵を描き始めます。後は目を入れるだけという時期はいつなのでしょう。いずれにしても最後に目を入れるのは子供自身なのではないのでしょうか。

「たちまち天に昇っていった」ようになるためにも、心を込めて竜の絵をつくりあげなければなりません。心も体も大きく成長し、幸せに生きていくための基礎基本が身に付く中学生の時こそ、人間としての最も大切な「眼を入れること」、すなわち「自立・自律に向けた準備をすること」を私たち大人は忘れてはなりません。これを怠ることは、まさに「画竜点睛を欠く」ということになります。

その仕上げを見守り、手助けをするのが私たち教師や家庭・大人の役目であると考えます。これからも、一人一人の生徒たちが【瞳】を輝かすように、お互いに知恵を出し合い、協力していく地域・家庭・学校でありたいものです。

4月からの子供たちの更なる成長を願い、学校・家庭・地域が一体となって子供の豊かな成長を支援しましょう。